

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

平成 28 年度 事業計画書

公益財団法人 情報通信学会

—学会活動の活性化の推進—

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

はじめに

情報通信産業は我が国の重要な産業の一つに成長し、経済の回復や地方創生といった国の重要政策においても情報通信やメディアの果たす役割は大きくなっている。このような時代のニーズに合わせ、学際的な立場から社会に貢献できる学会を目指す。また、情報通信に関する内外の研究者、企業人及び行政担当者にとって魅力ある学会とするため、学会誌、学会大会・研究会等における研究発表、国際的なフォーラム等の諸事業等、学会活動全般にわたり、学会活動の活性化を推進する。

1. 公益事業 1 学術大会、国際フォーラムの開催

学術大会及び国際的なフォーラムの開催は、学会員のみならず、広く外部からの参加を認めており、情報通信分野における総合的かつ学際的な研究発表の場となっている。

春（6 月）と秋（11 月）にシンポジウムを中心とする国際コミュニケーション・フォーラムと個人研究発表の場である学会大会を各 2 回開催する。

(1) 2016 年度春季 情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

2016 年度春季情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラムを 6 月 25 日（土）～26 日（日）、東京国際大学第二キャンパス（埼玉県川越市的場）において開催する。シンポジウム、個人研究発表（大学院生の部、一般の部）、研究会報告を行う。

国際コミュニケーション・フォーラムの一環として開催するシンポジウムは「情報産業としてのツーリズム（仮）」と題し、コンテンツ・ツーリズム、観光関連産業の ICT 利用など情報産業の側面から、ツーリズムの現状と未来に関して多角的な視点からの検討を行う。

学会大会の個人研究発表の質の向上を目指すため、すべての発表に討論者を付ける。また、大学院生の部において、優秀な発表にアーリーバード発表賞を贈る。

併せて、研究会報告を開催する。

この大会は情報通信月間参加行事である。

*別紙 1 「2016 年度春季情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム」

(2) 2016 年度秋季 情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

11 月に秋の国際コミュニケーション・フォーラムと情報通信学会大会を開催する。

シンポジウムは「放送とネットワーク：コンテンツ、技術、ビジネスの変化（仮）」とし、放送と映像コンテンツの変化に関する議論を行なう。

また、学会大会として、個人研究発表を行う。春の大会と同様にすべての発表に討論者を付け、優秀な大学院生の発表にはアーリーバード発表賞を贈る。

*別紙 2 「2016 年度秋季情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム」

(3) 平成 28 年度関西大会

関西地区における情報通信関連の学会、団体とも連携を図り、互いに協力して秋にシンポジウムもしくは若手研究者が参加しやすいワークショップなどを開催する。参加費無料で一般にわかりやすく情報通信分野の展望や問題点を紹介する。

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知を行う。

2. 公益事業 2 研究会等実施、機関誌等発行、研究顕彰事業

研究会等の事業として、約 10 の研究会による研究会報告を開く。さらに情報通信分野におけるタイムリーなテーマを分かりやすく取り上げたワークショップを開催する。これらの研究会、ワークショップは広く一般参加を認め、社会に貢献できるものとする。

また、学術論文の発表の場として年 2 回学会誌を刊行（電子版は年 4 回発行）、掲載された論文の中から優秀なものに春季学会大会総会において論文賞を授与する。

(1) 研究会・ワークショップの開催

平成 28 年度は以下の 10 の研究会により約 30 回の研究会を関東地区、関西地区、中京地区で開催する。また、積極的に新規研究会を募集し、研究会の活性化を図る。

また、情報通信ワークショップを年 2 回開催する。これらの活動についてホームページ等で周知、報告を行う。

1. 情報経済研究会
2. 国際情報研究会
3. 情報文化研究会
4. マルチメディア研究会
5. 情報行動研究会
6. モバイルコミュニケーション研究会
7. 情報知財研究会
8. 情報通信経済法学研究会
9. ビッグデータ研究会
10. コンテンツビジネス研究会

*別紙 3 研究会と情報通信ワークショップの計画と年間スケジュール

(2) 学会誌の発行

学会誌を電子媒体として年 4 回（5 月、9 月、12 月、3 月）発行する。紙媒体については、2 号合本形式で年 2 回（9 月、3 月）刊行する。

投稿された「論文」および「論説」については、査読を経て審査の上、「寄稿論文」については、「情報通信学会誌寄稿論文取扱規則」に定める手続きに従い掲載する。学会誌には、シンポジウム講演録、研究会報告等も併せて掲載し、会員への有益かつ迅速な情報提供に努める。

さらに、学会誌の国際化等を推進するため、英文の投稿を積極的に受け入れる。

(3) 論文賞の授与

学会誌に掲載された投稿論文の中から優秀な論文に対し、優秀賞、佳作の論文賞を選考する。選考された論文執筆者に表彰状、副賞を春季学会大会総会において授与する。

3. 管理部門

活発化した学会の事業活動を支えるため、管理部門の基盤を固め、経費の節減に努めつつ、スムーズな事業活動支援を行う。

なお、平成 27 年度評議員会議決に従い、基本財産の一部を取崩して公益事業促進基金に組み入れ、公益事業の継続的な活動を確保する。

(1) 会員

学会の基盤となる個人会員の増強を図る。特に若い研究者に対し新規入会を図る。

(2) 業務執行体制

事務局業務については、経費の一層の削減を行うとともに業務の円滑化を進め、学会活動の活性化を支える。

(3) 情報発信と情報公開

学会活動の迅速な情報公開を図るとともに、国際展開を踏まえ、英文ホームページの更なる充実を図る。

(4) 寄附

学会活動を広く周知し、これらの活動への理解を得られるよう努めるとともに、寄付を募り、学会活動の充実にあて、社会への貢献を行う。

(5) 資金運用の計画

平成 28 年度における資金の運用について、別紙 4 のとおり計画する。これをもって、学会の資金運用に関する規則第 3 条第 4 項に定める資金運用の計画とする。

*別紙 4 「平成 28 年度における資金運用の計画」

別紙1 2016年度春季 情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

開催日： 平成28年6月25日（土）、26日（日）

会場： 東京国際大学 第2キャンパス（埼玉県川越市の場 2509）

テーマ： 「情報産業としてのツーリズム（仮）」

開催主旨：

政府方針として観光立国が推進されているが、従来は比較的関連性が薄いと見られていたメディア・コンテンツやICT分野と観光産業との連携が近年、注目されている。予定している学会大会では、「観光は情報産業である」というキーワードを軸に、昨今、注目を集めているコンテンツ・ツーリズムに代表されるメディア・コンテンツとリアル空間の融合、観光関連産業におけるICT利用など情報産業としてのツーリズムの現状と未来に関して多角的な視点から検討を行う。

プログラム：（予定）

6月25日（土）

<情報通信学会大会>

10：30～12：30 個人研究発表（大学院生の部 アーリーバード）

12：30～13：30 昼休み

<国際コミュニケーション・フォーラム シンポジウム>

13：30～13：40 会長挨拶 及び 招聘校挨拶

13：40～14：30 基調講演

14：30～14：45 休憩

14：45～16：15 パネル・ディスカッション

官公庁、通信・ネット企業、交通企業、放送・コンテンツ企業を交えてディスカッション

16：15～16：30 休憩

16：30～17：15 総会

17：30～19：30 懇親会

6月26日（日）

<情報通信学会大会>

10：30～12：30 個人研究発表・ポスターセッション

12：30～13：30 昼休み

13：30～15：30 個人研究発表・ポスターセッション

15：30～16：30 研究会報告

*基調講演者及びパネリストは折衝中、詳細は決まり次第学会ホームページ等で周知する。

参加費： 国際コミュニケーション・フォーラム シンポジウム 無料

情報通信学会大会 会員 2,000円 一般 4,000円

懇親会費： 4,000円

申込方法： 学会ホームページより申込み
協 賛： 情報通信月間推進協議会（予定）

2016 年度春季（第 34 回）情報通信学会大会 個人研究発表およびポスターセッション募集要領

日時：2016 年 6 月 25 日（土）・26 日（日）

会場：東京国際大学 第二キャンパス（〒350-1198 埼玉県川越市的場 2509）

【注意事項】

- ・発表者は、情報通信学会の会員に限ります。但し、まだ会員でない方でも発表申込の前に入会手続きを行い、仮入会された場合は、申込が可能となります。また、共同研究者については、会員、非会員を問いません。
- ・当学会会員である発表者は、学会年会費の滞納がないことが条件となります。
- ・応募が多数となった場合、応募内容が不適切な場合には、当学会研究企画委員会にて審査を行い、発表者を選考することがあります。
- ・当学会所定用紙については、当学会ホームページ（<http://www.jsicr.jp>）よりダウンロードしてください。
- ・発表申込後に発表の取消しがないよう計画を立てて申し込んでください。

■個人研究発表募集要領

【扱う分野】

情報及びコミュニケーションに関する分野で産業や学術の発展に寄与する内容を持つ、独創性、新規性、有用性等の面で価値が認められる未発表のもの。

発表申込締切日 2016 年 3 月 15 日（火）正午 必着

申込票（学会所定用紙）をメールもしくは郵送にて学会事務局へ提出

報告要旨提出締切日 2016 年 4 月 28 日（木）正午 必着

報告要旨（学会所定用紙）をメールもしくは郵送にて学会事務局へ提出

※報告要旨の提出は必須です。（予稿もしくは発表資料の提出は任意）

※発表には討論者がつきます。

※報告要旨は当学会ホームページにて公開され、学会大会当日配布のプログラムに掲載されます。

予稿及び発表資料については、希望がない限り原則非公開とします。

《情報通信学会アーリーバード発表賞》

当学会では個人研究発表（大学院生の部）において、優秀な発表には「アーリーバード発表賞」を授与

し、学会大会総会において表彰状及び副賞（30,000 円）を贈呈します。

■ポスターセッション募集要領

【扱う分野】

情報及びコミュニケーションに関する分野で産業や学術の発展に寄与する内容を持つ、独創性、新規性、有用性等の面で価値が認められる未発表のもの。

発表申込締切日 2016年4月28日（木）正午 必着

申込票（学会所定用紙）をメールもしくは郵送にて学会事務局へ提出

※発表は、学会大会当日に事務局より指定された掲示場所にて行ってください。

※ポスターサイズは A1 サイズ 4 枚以内とします。発表者各自が印刷した上で、当日持参し、発表者本人が掲示してください。

お申込・お問い合わせ先：

公益財団法人情報通信学会事務局

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル 11 階

TEL：03-5501-0566 FAX:03-5501-0567

E-mail：event@jsicr.jp

URL：http://www.jsicr.jp

事務局開室時間 月曜日～金曜日 10：00～17：00

※土曜・日曜・祝日休み

別紙2 2016年度秋季 情報通信学会大会と国際コミュニケーション・フォーラム

開催日： 平成28年11月（未定）

会場： 都内会場（未定）

テーマ： 「放送とネットワーク：コンテンツ、技術、ビジネスの変化（仮）」

開催主旨：

かつて「通信と放送の融合」と言われた、放送とネットワーク配信の技術・ビジネスの融合化・変化が本格的に進行しはじめている。オリンピック開催をにらんだ技術（4K、8Kほか）の動向、放送、映像、音楽、出版の配信ビジネス化など、メディア・情報通信の既成概念を書き換えるべき大きな動向について放送、技術、コンテンツ、ビジネスの領域から議論する。

プログラム：（予定）

<情報通信学会大会>

10：00～12：30 個人研究発表

<国際コミュニケーション・フォーラム シンポジウム>

13：30～13：40 会長挨拶

13：40～14：40 基調講演

14：40～15：00 休憩

15：00～17：30 パネル・ディスカッション*

18：00～20：00 懇親会

個人研究発表及びポスターセッションの募集（予定）

募集：個人研究発表 8月中旬～9月中旬 予定

ポスターセッション 8月中旬～10月上旬 予定

報告要旨提出締切：個人研究発表 10月中旬予定

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

別紙3 研究会と情報通信ワークショップの計画と年間スケジュール

<研究会>

1. 情報経済研究会 年2回開催予定

情報経済に関わる政策課題を中心に幅広いテーマで議論をする場として、本年も研究会を開催する。長きにわたって幅広く情報通信の経済的側面を取り上げてきた研究会であるが、本年は放送の側からいくつかのテーマと取り上げ、行う予定である。

第1回 6月 「放送番組海外販売に関する研究会（仮）」
第2回 秋（時期未定） 「映像ネット配信事業に関する研究会（仮）」

2. 国際情報研究会 年2回開催予定

ICT産業の発展により、グローバルなコミュニケーションが大幅に進化し、関連市場がダイナミックに変貌するとともに、産業政策や国際協調のあり方も変化しつつある。そこで、本研究会では、国際的な視点からICT産業と情報サービスを媒介とした市場、政策、技術、社会の変化の方向性を探りつつ、世界のICT産業の発展と人々の豊かなコミュニケーションに資する要件を考察する。

9月、12月に開催予定、テーマは未定。

3. 情報文化研究会 年2回開催予定

わが国における情報化の進展が、国民の生活文化に及ぼす影響や効果を国際比較も含め幅広く視野に入れ、何がどのように変わりつつあるか、また何が不変かを考察する。産官学が結集して「より公益的な研究テーマ」を発掘・開拓することで、情報通信社会の大衆化に対応し、同時に、若手研究者の研究発表の機会を増大することで、情報通信社会の深化に対応していく。

開催時期及びテーマは未定。

4. マルチメディア研究会 年2回開催予定

マルチメディア情報通信空間は、メッセージ交換から仮想現実空間の構築、ペットロボットの出現などにまで発展してきた。ドローン等の応用の進展にともなうプライバシーやデータの保護など、ICTの利用が進む中での様々な視点から問題を扱えるよう、他の学会との連携を強化し、研究会の共同開催などをより積極的に実施する。

開催時期及びテーマは未定。

5. 情報行動研究会 年1回開催予定

メディア環境が大きく変容する現代社会において、ユーザーの情報行動、コミュニケーションの実態を把握し、情報通信の発展に寄与する研究活動の一環として開催する。

第1回 6月 「情報行動の実態と経年的変化について（仮）」

6. モバイルコミュニケーション研究会 年3回開催予定

情報通信分野におけるモバイルメディアの普及は現代人の社会生活全般に大きな変化を与えつつある。本研究会では、このようなモバイルメディアに焦点を合わせ、今日の情報通信社会におけるコミュニケーションの変化、メディア文化の変容等について研究する。

第1回 5月 「スマホアプリ*Ki-Re-iIngress*人気の秘密 (仮)」

第2回 6月 「ポスト・モバイル社会：セカンドオフラインの時代へ (仮)」

第3回 10月 「Google's Project Tango の可能性 (仮)」

7. 情報知財研究会 年8回開催予定

デジタル技術、ネットワーク技術に代表される情報通信技術の進展に伴ってコンテンツの流通形態が多様化し、著作権法をはじめとする知的財産法制はさまざまな対応を迫られている。この研究会では、情報通信技術の進展により具現化しつつある「通信と放送の融合」といった局面に、知財法制、知財政策がいかに対応すべきであるかを研究し、高度情報通信社会におけるコンテンツの円滑な流通の在り方を探る。

4月、6月、7月、9月、10月、12月、2月、3月に東京大学先端研知財大部門丸の内分室にて開催予定、テーマ等は未定。

8. 情報通信経済法学研究会 年3回開催予定

情報通信分野においては、ネットワークのブロードバンド化、インターネットの普及、通信と放送の融合等を背景として、事業者間の競争及び紛争の状況が変化しつつある。一般競争法及び事業規制法についても、このような変化に対応し得るよう、両者の競合・協働関係を含め、解釈論及び立法論の双方を深めることが必要となってきた。本研究会は、情報通信分野における事業者間の競争及び紛争に関する今日的な諸問題に関し経済法学の見地からの研究を行うことを目的とする。

名古屋大学にて開催予定、テーマは未定。

9. ビッグデータ研究会 年3回開催予定

ビッグデータ分析という新しいデータ分析手法がメディア研究におよぼす効果、影響などを明らかにするために、いくつかの個別テーマを設けて研究を進めていく。本年度取り上げるテーマとしては、放送のセカンドスクリーン・サービスを取り上げたい。本テーマは、直接、ビッグデータにかかわる問題ではないが、テレビのファーストおよびセカンドスクリーンを経由したパーソナル・データ収集問題などは、ビッグデータともかかわる新たな政策課題となりつつある。

第1回 6月 「情報産業としてのツーリズム (仮)」

第2回 9月 「OTTと視聴データの利用分析 (仮)」

第3回 12月 「モバイルサービスとSNS (仮)」

10. コンテンツビジネス研究会 年3回開催予定

注目を浴びるようになって久しいコンテンツ産業だが、そこには常に新たなビジネス生態系が生じている。本研究会では、テレビ番組、映画、アニメ、音楽、ゲームなどのコンテンツ分野を横断的に取り上げ、新たなプラットフォームやマーケットなどの環境変化への対応に始まり、プロモーション、商品化、物品販売、イベント興行、他産業との連携などを通して、コンテンツの価値を最大化するビジネススキームを考察・理解することを目的とする。併せて、そこでの課題について整理し、今後の方向性を検討する。

第1回 6月 「アニメ制作システム（仮）」

第2回 10月 「ユーザーのコンテンツ利用行動（仮）」

第3回 2月 「新技術と自動化が映像産業に与える影響（仮）」

*詳細は決まり次第、学会ホームページ等で周知する。

*新規研究会を募集中

<情報通信ワークショップ>

年2回開催

平成28年度第1回情報通信ワークショップ

日時： 4月 （日時調整中）

場所： 都内会議室（予定）

テーマ： 「茨城県行方市のフルセグ地上波テレビ局の開局」

登壇者： 鈴木周也（行方市長）依頼中

*第2回目以降は、決まり次第学会ホームページ等で周知する。

別紙4 平成28年度における資金運用の計画

資金の種類 及び 年度期首における金額	運用の計画
A 基本財産 7,600 万円	
(1) 年度内に満期を迎えるもの 2,600 万円 ①みずほ銀行定期預金 (平成28年7月7日満期、額面500万円) ②ゆうちょ銀行定期貯金 (平成28年7月7日満期、額面100万円) ③みずほ銀行定期預金 (平成28年9月30日満期、額面2,000万円)	満期到来時に、基本財産の運用対象として理事会の承認を得て資金運用細則に定めた預貯金及び投資有価証券へ、預け替え又は買い替えて運用する。
(2) それ以外のもの 5,000 万円 ④第315回大阪府公募公債 (平成30年6月27日満期、額面1,000万円) ⑤第392回大阪府公募公債 (平成37年1月29日満期、額面3,000万円) ⑥第45回利付国債(30年) (平成56年12月20日満期、額面1,000万円)	左記の有価証券により、引き続き運用する。
B その他の資金 1,696 万円	
a 退職給付引当資産 216 万円 216 万円 定額貯金・定期貯金	平成28年度の積立額84万円を含め、定期預貯金及び定額貯金により運用する。
b 周年事業基金積立資産 640 万円 640 万円 定期預金	35周年記念事業に備え、基本財産に準じ、現在運用中の定期預金を含め、基本財産に適格とされた運用対象により運用する。
c 公益事業促進基金積立資産 540 万円 40 万円 MMF (マネー・マネージメント・ファンド) 500 万円 定期預金	平成27年度評議員会の議決により、平成28年4月1日に基本財産のうち500万円を取崩し、公益事業促進基金積立資産に組み入れる。
d 公益目的事業1 寄付金 300 万円 300 万円 普通預金	平成29年度に国際学会 ITS との合同シンポジウム開催に充てる。平成28年度はこのまま保有。